

# 花のお江戸を歩く会

## これがホントの新宿散歩

### 「新宿百人町～新宿新都心界隈～明治神宮」

平成25年9月22日[日]

#### 《散歩道のご案内》

新宿といえば青梅街道沿いの内藤新宿～新宿御苑周辺までの宿場の歴史がメインのように思われている。しかしそれは新宿のほんの一部の表の顔である。実際は、江戸時代の浮世絵に美しく描かれた、北新宿の成子坂周辺の水車の音が懐かしい神田川沿いの農業地帯や江戸城の守りとしての「百人町」、新宿が世界の大都市に発展する基盤でもあった34ヘクタール（東京ドーム8個分）の広大な淀橋浄水場跡（現在は高層ビル群11街区+新宿中央公園）などにホントの新宿の姿を垣間見ることができる。

今回は、そんな本音の新宿を歩きつつ、ご当地ソングの「南こうせつ：神田川」を口ずさみながら、都庁47階の360度パノラマで大東京の展望を楽しみつつ、閑静な代々木の住宅街を抜け、明治神宮まで足を伸ばします、花のお江戸ならではの超欲張り散歩道で楽しみましょう。

#### 《散歩道の順路》

JR新大久保駅→皆中稲荷神社（百人組縁）→百人町文化通り→俳句文学館→鎧神社→円照寺→神田川緑道→新開橋（南こうせつ縁）→蜀江坂（内村鑑三終焉地）→成子天神社→成子地藏尊→青梅街道→常泉寺（新宿鬼子母神）→常園寺（太田南畦縁）→淀橋浄水場跡碑→策の井（徳川家康縁）→都庁47階展望台→熊野神社（新宿十二社縁）→新宿中央公園→正春寺→天満宮（箒銀杏）→田山花袋終焉地→平田神社→高野辰之終焉地→菱田春草終焉地→参宮橋→東京乗馬クラブ→ポニーの広場→明治神宮→JR原宿駅解散

#### ① 皆中稲荷神社（かいちゅう）…出陣のイベント開催中→2年に一度開催

天文2年(1533年)にこの地に鎮座して、大久保の鎮守となりました。寛永年間には、幕府が「鉄砲百人組」をこの付近に住まわせたことから、「皆中」を「みなあたる」と読むことで縁起がよいとされ、鉄砲組の信仰を得て、「百人組出陣の儀」が奉納されるようになったといえます。

鉄砲隊百人組がこの地に住むようになると、近在の旗本などの信者も多くなり、「皆中稲荷」と称されるようになったといえます。

同社は、第二次大戦で本殿を残してその他の建物を焼失してしまったため、伝来の武具や古文書を焼失しました。現在、それを補う意味と「百人隊行列」を実行するために、多くの古銃や関係資料を収集しています。→百人町文化通り

## ② 俳句文学館

俳句文学館は、社団法人俳句協会が運営する図書館で、日本で唯一の俳句文芸専門図書館です。収蔵図書は2002年12月末現在、句集45,758冊、俳句雑誌269,049冊におよび、誰でも自由に閲覧することができます。

社団法人俳句協会は、14,000名を擁する文芸団体（公益法人）で、会報「俳句文学館」を毎月刊行しています。俳句文芸の創造的発展とその普及を図り、日本文化そのものの向上に寄与することを目的とした団体です。その目的を達成するために、全国俳句大会や各種俳句講座の開催、機関紙の発行、海外との交流など、幅広い活動を行っています。

## ③ 鎧神社

江戸時代までは「鎧大時明神」と称しました。「鎧」の社名は、伝説によると日本武尊命が東征してきた際に、この地に甲ちゅう六具を納めたことによるものといわれています。

また一説によれば、天慶3年(940年)、藤原秀郷により討たれた平将門の鎧を埋めたとか、病に苦しむ秀郷、境内に将門の鎧を埋めてその霊を弔ったところ病が全快した、などともいわれています。以後、柏木村の鎮守の社として村人たちから崇敬を受けてきました。また本社は、「天慶の乱」の際、将門の弟将頼が陣地にしたともいわれます。

境内の天神社には、享保6年(1721年)に奉納された素朴な狛犬があり、庚申塔に流用された珍しい姿を見ることができます。

## ④ 圓照寺

醍醐天皇の時代に、理源大師の弟子、貞崇僧都が現在の圓照寺の辺りに薬師如来像を安置。承平5年(939)にかけて平将門が関東に勢力をもつようになった。天慶3年(940)、藤原秀郷が将門を討伐するため軍勢を率いて出陣したが、中野の辺りで病に伏してしまった。その夜の靈示に従って祈ったところ、苦痛はたちまちなくなり、将門討伐の祈願も達成された。喜んだ秀郷は、凱旋の後に堂塔を建立し、圓照寺とした。また一説では、旧地頭の柏木右衛門佐頼秀の館跡であったとも伝えられており、境内にその由来にもとづく右衛門桜が植えられ、名木として有名だった。→神田川緑道→新開橋→柏橋

## ⑤ 末広橋

神田川緑道と桃園川緑道が交差するここ末広橋には、＝南こうせつ＝でお馴染みの「神田川」の歌碑が建てられている。ここらが神田川発祥の地と誤ってしまうが、作詞した喜多条氏の著書によれば、三疊一間の小さな下宿からは「大正製薬のネオン」が見えたなどの記述からするとここより下流の戸平橋近辺の神田川沿いだったようです。→燭光坂→

## 内村鑑三終焉の地

## ⑥ 成子天神社

延喜3年(903年)の創建であるといわれ、祭神は菅原道真です。建久8年(1197年)に源頼朝が社殿を造営したといわれていますが、詳しいことは不明です。寛文元年(1661年)に現在地に移転し、柏木・成子地区の鎮守となりました。

社殿のわきに新宿区指定文化財の7個の『力石』があります。秋の大祭には村の若者た



ちが力くらべをしたといいます。石には重さと持ち上げたと思われる人の名前が刻まれています。

また境内奥には、新宿区登録史跡の『富士塚』があり、七福神めぐりができます。もと天神山という小山があり、それを大正9年に改造したものです。「丸藤成子講」という講組織が、柏木地区を中心に活動していましたが現在は活動を中止しています。

真言宗豊山派の寺院で、医光山瑠璃光圓照寺という。もと鎧神社の別当寺であったといわれている。縁起については定かではないが、『江戸名所図会』などによれば、次のような経緯を経て、藤原秀郷によって建てられたという。

### ⑦ 青梅街道

現在の新宿三丁目一番辺りは、現在でも追分と呼ばれている。往昔、この辺り甲州・青梅両街道がY字形に分かれていたのであろう。青梅街道は、慶長11年(1606)に開かれた、江戸期における脇街道である。

道筋は、内藤新宿の追分で甲州街道から分かれ、角筈、柏木、中野、高円寺、馬橋、阿佐ヶ谷、天沼、上荻、上井草、上石神井、関町、上保谷、田無、小川、箱根ヶ崎、新町、青梅に至る。さらに氷川、川野(以上都内)、塩山、酒折(以上山梨県)に至り、甲州街道に合する。

江戸市街の整備、江戸城構築が本格化すると、その構築材として使用する石灰を青梅の成木・小木曾から求め、その運搬のために開かれた。また、武蔵野の開発、奥多摩の木材、絹織物、薪炭の輸送に利用されたのである。

### ⑧ 常泉寺(新宿鬼子母神)

寛文年間(1661-1673)に日俊上人が創建。新宿鬼子母神(成子の子育て鬼子母神)、淨行菩薩(心身を清める水かけボサツ)が祀られており、地域住民をはじめサラリーマンやOL、さらには外国人らの参詣もある。またお題目修行を中心にした誰でも参加出来る「幸せを願う感謝のお題目会」を毎日午後2時より無料で行っている。

### ⑨ 常圓寺(太田南畦縁)

創設時の詳細は不明だが天正十五年(1585)現在地に移転した、約六百年の歴史を有する寺院。本堂には徳川光圀公寄進の三宝諸尊を安置し、祖師堂には十一代将軍家齋公が江戸城中にて守護仏とした「感応胎蔵の祖師像」を奉安している。先の大戦で諸堂悉く灰塵に帰したが、当道場の開山でもある「及川真学」上人中興となり本堂他堂宇再建なり今に至る。春には江戸三大桜の枝垂れ桜がすばらしい花を咲かせ、また他のお寺と違うのは、地方から来た修行僧が多数寝食を共にし、日蓮宗の中核を担う僧侶を100名以上輩出して来た「苦修練行」のお寺でもある。新宿の雑踏の中読経の声が絶える事は無い。

境内には、江戸時代中期の狂歌師便々館湖鯉鮒(1749~1818)は本名を大久保正武といい牛込山伏町に住み、初めは福隣堂巨立と号し、のちに便々館と改めた。この狂歌碑は自然の青石に彼の代表作「三度たく米さえこはしやはらかし、おもふままにはならぬ世の中」が刻まれている。書は狂歌中興の祖太田南畝(蜀山人)の揮毫で文政二年(1

8190に建立された狂歌史上貴重なものである。

## ⑩ 策(むち)の井跡

もとは、新宿西口の「新宿エルタワービル」付近にありましたが、現在は蓋をされて、同ビル西南隅の植栽にモニュメントが建てられています。

この井戸が『策の井』といわれるゆえんは、徳川家康が鷹狩りの帰途、汚れた「策」を洗ったという伝承によります(『江戸砂子』より)。家康は、晩年は駿府へと隠退し、「大御所」と称されていましたが、年に何度かは江戸城に滞在して将軍秀忠に進言していました。江戸城にいるときは頻繁に鷹狩りに出ていたため、このような伝承も根拠のある言い伝えといえるでしょう。

『策の井』は、四谷の松平摂津守の下屋敷の庭内にあり、「名井」・「名湧水」との噂を聞きつけた家康がわざわざ立ち寄ったともいわれています。

常円寺 便々館湖鯉鮒狂歌碑 淀橋七地蔵

日蓮宗の寺院で、天正13年(1585年)に日立上人によって創建されました。寺の広い中庭の植込みに見える石碑には、狂歌師便々館湖鯉鮒の「三度たく米さへこはし柔かし おもふままにはならぬ世の中」という狂歌が刻まれています。これは、大田南畝(1749~1823年)の筆によるもの。南畝は、狂歌・洒落本・滑稽本の作者として知られた人です。湖鯉鮒没後の翌年にこの石碑が建てられているため、追善の石碑と考えられます。

また、本堂わきに並んだ七体の地蔵尊は、昭和5年に発覚した大久保町の「七乳児絞殺トランク詰め死体事件」の被害者の冥福を祈って建てられました。今日では、無縁行路死亡者および水子霊を合わせて供養する法要が営まれています。

## ⑪ 超高層ビル街

新宿副都心は、東京都が、かつての淀橋浄水場跡地(約34ha)を1960年(昭和35)年に新宿副都心計画として決定し、再開発を行ってきた場所であり日本における超高層・高容積率都市開発の先駆的な例です。

「副都心」とは、都心に集中する業務機能の受け皿として、また各地域の商業や文化、生活などの広域的な拠点として設定された地域です。新宿の開発テーマは「ビジネスとふれあいの広がる街」で、昭和46年の京王プラザホテルを第一号とし、次々に高層ビルが建設され平成3年の都庁移転により、名実ともに新都心となりました。

## ⑫ 東京都庁舎

現在の都庁は、丹下健三氏によって設計され1990(平成2)年12月に庁舎が竣工された。その後1991年(平成3)年4月に有楽町駅北側から移転し開庁しました。48階建ての第1庁舎と34階建ての第2庁舎、7階建ての都議会議事堂と約300㎡の都民広場からなる東京都庁舎では1万人以上の職員が働いています。45階にある展望室は、地上202mからの眺望を楽しみながら、東京のまち、房総や富士山が一望できます。

## ⑬ 新宿中央公園

新宿西口は、都庁舎をはじめとする超高層ビル群が整然と立ち並ぶビジネス街です。こ



ここにビル街のオアシス、『新宿中央公園』があります。『新宿中央公園』は、新宿駅西口を中心にして、北は青梅街道、西は十二社通りで囲まれた扇形の公園です。昭和35年、都水道局淀橋浄水場跡地を中心に、新宿副都心として計画されました。八万本の樹木、新宿ナイアガラの滝、白糸の滝をはじめ、池や噴水を配した、水と緑の広場です。

#### ⑭熊野神社

室町時代の応永年間に紀伊国から来て中野一帯を開拓し、中野長者と呼ばれた鈴木九郎が、郷土の熊野三山の十二所権現を勧請してまつたのが、起源とされています。

もと熊野神社の境内は広く、複数の池や滝があった江戸西郊の景勝地でした。芝居や浮世絵にも登場し、将軍もしばしば鷹狩りの際に立ち寄りしました。また、池を囲んで料亭が立ち並んでいました。昭和30年代までは料亭が賑わいを見せていましたが、昭和43年に埋め立てられ、昔の面影はありません。

境内には、大田南畝の書のある『水鉢』や、付近の風景を称えた『十二社の碑』をはじめ、『七人役者図絵馬』や『式三番奉納額』など、数多くの文化財が存在しています。のみならず、広く一般に親しまれています。 →正春寺→天満宮(簀銀杏)→新宿駅(JR南口・都営地下鉄・大江戸線)解散

### 《今週の青春歌謡：神田川》昭和48年：南こうせつとかぐや姫

あなたは、もう忘れたかしら 赤い手ぬぐいマフラーにして

二人で行った横丁の風呂屋 一緒に出ようねって言ったのに

いつも私がまたされた 洗い髪がしんまで冷えて

小さな石鹸かたかた鳴った

あなたは私の体をだいて 冷たいねって言ったのよ

若かったあのころなにも怖くなかった ただあなたの優しさが怖

かった♪

1970年代の若者文化を象徴する作品のひとつに数えられており、新宿の末広橋近くの公園には「神田川」の歌詞碑が建てられている。なお、実際の歌の舞台はもっと下流の戸田平橋付近で、作詞の喜多条が住んでいた「三畳一間の小さな下宿」は豊島区高田3-7-17に所在した「千登世旅館」(2008年廃業)の隣りにあったといわれる。